

こころスマイルプロジェクトとは

2014年8月のワンダーコア売上1%を寄付するなど支援を行っている

- 「こころスマイルプロジェクト」についてのレポートです。

「こころスマイルプロジェクト」は、東日本大震災の影響で不登校やPTSDになってしまった子どもたちや、震災により家族や家庭を亡くした親や子どもたちの心のケアを行っています。

代表理事の志村知穂さんは震災直後から緊急物資の支援などを行っていましたが、「大人は我慢できるから、子どものケアを頼みたい」と言わされたことがきっかけで、子どもへの支援活動を始めました。

甚大な被害を受けた地域の学校へ、物資や給食を届ける支援や、子どもたちに楽しんでもらおうと、自分の好きなお菓子が選べる「駄菓子屋ワゴン」を開催。自由に遊べず、居場所がない子どもたちのために、放

課後児童クラブを開設しました。

こうした活動の中で、志村さんは、津波で親を亡したことによるPTSDや、様々な理由で不登校となり、他の子どもたちと交流を持つことが難しい子どもたちにはサポートが必要だと気付いたそうです。子どもや保護者の心のケアの重要性、またそれが長期化するであろうことを感じていた志村さんは、継続して支援ができる場所が必要と考え、その居場所づくりを始めました。それが、「こころスマイルハウス」です。

「将来的にひきこもりなどにならないように、一人でも二人でも学校に戻すことができたらと思っています。誰にも相談できないとき、ここならば話を聞いても



こころスマイルプロジェクト代表理事/志村知穂さん

らえる、安心して受け入れてもらえるという場所でありますね。親にとっても、子どもにとっても、第一の居場所は家庭であるべきだと思いますが、こころスマイルハウスがもう一つの居場所になればと思います。心の復興はまだまだ遠いのです」と志村さんはこころスマイルハウスが目指すところを話してくれました。

〈志村さんの詳しいストーリーはこちら
docomo 東北復興・新生支援 笑顔の架け橋
Rainbowプロジェクト

<http://rainbow.nttdocomo.co.jp/enterprise/detail/128/>

子どもたちの声をきいて、さらなる支援へ

地域のコミュニティをより明るく元気に!

「ヨイショトーホクプロジェクト」第二弾の支援がはじまります。

ショップジャパンでは、こころスマイルプロジェクトの支援を継続して行うことで地域のコミュニティ全体を元気にする取り組みを行っていきたいと考えています。被災地のさらなる自立支援を行うために発足した「ヨイショトーホクプロジェクト」では、第一弾の支援として、ワンダーコアの売上を寄付。こころスマイルプロジェクトの活動基盤となる「こころスマイルハウス」の水道工事、電気工事、内装工事を行い、完成させることができました。また、東北支援のパートナーである認定NPO法人ホープ・インターナショナ

ル開発機構と協働し、こころスマイルプロジェクトが自立して運営できるよう、事業計画作成やスタッフの教育などを行っています。

第二弾では、こころスマイルプロジェクトの隣に子どもたちが遊べる場所をつくる支援を行います。こころスマイルプロジェクトに通う子どもたちは、不登校やひきこもりによる肥満が問題になっています。また、「外



子どもたちからもらった絵



震災の影響で遊べる場所が少なくなってしまった石巻市。こころスマイルプロジェクトに通う子どもたちだけではなく、地域の子どもたちにも利用してもらえる場所になればと願っています。

ショップジャパンは、今後もこころスマイルプロジェクトの支援を通じ、被災地の心のケアを行っていきます。



Before



After



木のぬくもりがある内装と、子供たちと一緒に選んだ家具

東北 スタディツアーレポート

TOPICS

1

蔵内漁港で、土嚢つめ体験!

[蔵内漁港]

蔵内漁港を訪れました。Genki Japan Fund の支援を元に大きな冷蔵庫を購入したことでの海産物の保存ができるようになり、漁を続けることができるようになったそうです。継続的に仕事が続けられるような支援ができたことを知り、本当に嬉しく思いました。ここでは土嚢つめのお手伝いをしました。この土嚢はワカメやホタテの養殖の際に重石

ニュースでは路線が復旧した、がれきがほぼ片付いた等、復興がかなり進んだイメージがありましたが、実際に現地の方々に接し、リアルな被災地の今を体感することができました。



として、利用されるそうです。10トンもの砂利を、土嚢につめる作業を総勢19人で2時間ほどかけて行いました。快晴というよりは酷暑の中、目に染みるほど汗を流しながらの作業。この重石を使って、美味しいワカメやホタテが育ち、漁師の方々の生計が成り立つ、ということで、自分たちの手が漁師の方々とつながって

いるように感じ

ました。漁師の方々

はとても明るく、時には冗談を交えながら、わたしたちに作業の指示をしてくださいました。強く前向きに進んでいるその姿勢に、とても感動しました。

TOPICS

2

こころスマイルプロジェクト訪問

[宮城県石巻市 こころスマイル]

震災で子どもを亡くされたお母さんにお会いしました。話をすると思い出で辛いという事でしたが、震災についてより多くの方に伝えたいという思いから、今回は特別にお話を伺う事ができました。



震災の日、高台にある幼稚園に子どもをあずけていましたが、地震が起った直後、親許に送り届けるよう指示が出されたそうです。皆が高台に向かう中、送迎バスは海辺を回った為、園児たちは津波に巻き込まれてしまいました。遺体が見つかった際、子どもを抱きしめたかったそうですが、抱きしめると体が崩れてしまうので、それさえもできなかつたと声をつまらせながら話して下さいました。辛い体験を乗り越えようと頑張っていらっしゃる姿に、強く心打たれました。



二人目のお子様は今、高台にある新しく完成したこころスマイルハウスに通っています。はじめは多くの大人の訪問に緊張していたお子さんでしたが、最後には大きなダンゴ虫を見せてくれたり、バスに手を振ってくれたりと笑顔を見せてくれました。被災の話を伺って張りつめていたわたしたちの心も、少しほっとしました。子どもたちにもっと笑顔が戻るような支援活動ができるといいな、と切に思いました。

TOPICS

3

紙すきと、ステンシルでの葉書作成体験

[仙台市南三陸町 のぞみ福祉作業所]

この作業所では、障がいの方々の自立支援を行っています。障がいの方が書いた絵を元に、ハンカチやタオル、キーホルダーを作成するなど、活発な取り組みを行っています。

現場では、障がいの方々が作業しやすいように大きなスタンプを手作りしたり、ステンシルという穴を開けた

ラスチックの角の部分を固定していたりと随所に工夫がされていました。

実際に、葉書づくりを体験させていただき、思った以上に手のかかる丁寧な作業であることに驚きました。まず、紙すきをして葉書の台紙を作るところから始めます。全国から届いた牛乳パックを細かくちぎって、水にふやかします。そして、均一になるように紙をすき、水分を吸い取り、乾かします。その後、ステンシルを使い、数人で色違いのスタンプを押していきます。作業が分かりやすいように、一人



一つの色でスタンプを押していきます。細かく丁寧な作業を経て、ようやく完成です。葉書の壳上は好調で、継続的に収入を得ることができているそうです。障がいの方々の自立支援のために、ショップジャパンの継続的な支援が実を結んでいることが分かりうれしく思いました。

